

「水俣病展2017」は 社会の在り方、生き方について 私たちに問いかけます

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

号外 水俣病展案内

発行：グリーンコープ共同体育会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>



「水俣病展2017」ポスター
写真は胎児性水俣病の少年。一家全員水俣病で家庭は崩壊したが、純粋無垢な笑顔を絶やさなかった

水俣病展2017

開催期間 2017年11月16日(木)～12月10日(日)
展示会場 熊本県立美術館 分館全館
*期間中、熊本市内各所で講演や映画上映会などのホールプログラムも行われます

※1 水俣病の公式確認から61年目となる今年、グリーンコープは水俣フォーラムと共に、熊本県で「水俣病展2017」を主催します。組合員が検討したホールプログラムも予定しています。
※2 一人でも多くの組合員に足を運んでいただきたいと、現地のグリーンコープ生協くまもとが中心となり、水俣フォーラムと一緒に2年以上かけて準備をすすめてきました。「水俣病展2017」開催にかかる組合員の想いを紹介し、入場券の購入とカンパについて案内します。

原因不明の神経疾患の発生が水俣保健所に届けられ、水俣病が公式に確認されたのは1956年。急速な高度経済成長の中、「もはや戦後ではない」と謳われた頃でした。大量生産・大量消費が奨励され、その後も日本各地で公害や食品汚染が続きました。水俣病は、生命よりも経済や企業利益が優先される社会が生み出した公害と言えます。

生命を育むはずの食べものが経済効率優先の商品と化していく中、日本各地で母親たちが立ち上がります。安心して暮らせる社会や安全な食べものを自分たちの手で取り戻そうと、小さな協同組合や共同購入会が次々に誕生していきましました。地元を生産者と顔の見える関係を築き、地域とのつ

水俣病は グリーンコープの 原点の一つ

「便利で豊かな社会」に
生きる私たち
一人ひとりの問題

水俣病の加害者となった企業が製造していたのは、人々の生活をより便利にするためのプラスチック製品の原料でした。科学技術の発達が多量の人々に豊かさをもたらした日本社会を大きく成長させたのも事実です。しかし、便利さや豊かさを追い求めるがゆえに生命や食べものがないがしろにされ、弱い立場の人々が犠牲となりました。60年経った今もなお、その構造は変わらず、原発事故をはじめ、様々な問題が続いています。

水俣病は、決して過去の出来事ではありません。今を生きる私たち一人ひとりの問題です。



グリーンコープ生協くまもと
理事長
高濱 千夏さん

「いのち」の大切さを 伝えていきたいと思っています

水俣病の健康被害は、食べることから始まりました。毎日のように食べていた魚が原因だと知った時のお母さん方の気持ちを思うと、同じ母親として胸が痛みます。
グリーンコープは、「いのち」を大切に生協です。その「いのち」は、この世で一番大切にされなければならないものです。私たちは、一人の母親として、女性として、人としての感性を大切に、「いのち」に寄り添う食べもの運動を続けています。その一つとして、「水俣病展」で感じたことを日々の暮らしの中に結びつけ、社会の在り方や自分の生き方を考える機会にできればと考えます。
一生懸命準備していきますので、ぜひ一人でも多くの組合員の皆さんに「水俣病展2017」に来ていただきたいと思っています。

水俣病(※1) 熊本県水俣市にあるチツソ(株)の工場廃水に含まれていたメチル水銀が不知火海の魚介類を汚染し、知らずに食べた人々の中枢神経が冒されて発症する中毒性疾患。胎児性水俣病も確認され、発見から60年経った今も、多くの患者が慢性症状に苦しんでいる。発症時から患者総数は推計50万人とも言われる。

水俣病展(※2) 膨大な文献や映像、実物によって構成された水俣病についての展覧会。熊本県内で開催の場合は「水俣病展」社会や人間について考える機会を提供するため、水俣フォーラムが各開催地の団体とともに開催を続け、1996年以來、全国各地で24回開催している。

水俣フォーラム(※3) 水俣病40年を機に「水俣病展」を開催するため、1992年に東京で活動を開始した実行委員会をもとに、1997年に発足。水俣病の開催を軸に、出版やライブショーの開設、「水俣病大学」「水俣セミナー」「水俣への旅」の開催を続けている認定NPO法人。

「水俣病展2017」前売券 購入のご案内

前売券(組合員価格)

前売券は、共同購入申込書で注文できます

◎申込期間 8月28日(月)～11月11日(土)

◎申込番号 **9090** 前売券 500円
グリーンコープ組合員
および高校生以上のご家族
(一般価格1000円)

9089 前売券 200円
小学5・6年生と中学生
※小学4年生以下のお子さんは無料です。

【例】前売券を2枚ご希望の場合は、申込番号**9090**の数量欄に「2」とご記入ください。お1人何枚でも注文できます。
・注文から2週間後の配達時に、封筒に入れて、商品と一緒にお届けします。

当日券(組合員価格)もあります

◎グリーンコープ組合員および
高校生以上のご家族
800円(一般価格1200円)

◎小学5・6年生と中学生
300円

・会場の当日券販売窓口で、グリーンコープの組合員証をご提示ください。同伴の方(複数可)も組合員価格でご入場できます。

※入場券1枚で、展示またはホールプログラムのいずれか1回入場できます。(同日に、展示とホールプログラムの両方に入場される場合は、入場券が2枚必要となります)

※前売券・当日券ともに、障害者手帳持参のご本人、障害者手帳の等級が第1級の方の付き添い1人は無料です。

カンパにご協力ください

皆様からのカンパが 「水俣病展2017」の運営を支えます。

水俣展の開催には、地域に住む市民がサポーター(ボランティア)として参加し、準備から当日の運営までをすすめていきます。

「水俣病展2017」は、市民ボランティアと皆様のカンパによって運営されます。

カンパは、共同購入申込書で受け付けます

◎受付期間 8月28日(月)～11月11日(土)

◎申込番号 **9092** 1口 200円

9095 1口 500円

【例】申込番号**9092**の数量に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

水俣病展2017

2017年11月16日(木)～12月10日(日)開催



2013年の福岡展にて、メイン展示の入口



福岡展の会場風景

「水俣病展2017」では、開催期間を通し、熊本県立美術館分館にて展示が行われます。また、ホールプログラムとして、様々な分野から講師を招いて講演や映画上映会が市内各所で企画されます。

グリーンコープ生協くまもとの組合員が検討したホールプログラムについて案内します。

※展示の詳細、各ホールプログラムの内容・会場については、後日配布予定の「水俣病展2017」公式チラシでご案内します。

2013年5月に行われた「水俣・福岡展」の印象について、二人の組合員に聞きました。また、「水俣・福岡展」にサポーターとして関わった方に話を伺いました。



ぜひ、お子さんと一緒に観ていただきたいと思います

グリーンコープ生協ふくおか福岡地域理事長
北口 淳子さん

福岡展の会場に足を踏み入ると、いつもと違う空気がそこにありました。会場には、膨大な白黒の写真が展示されていました。一つひとつの写真の中にある様々な想いが私に訴えかけてきました。

福岡展から帰った後、一緒に行けなかった子どもたちに、たくさん話をしたことを覚えています。

これからの世代を担う子どもたちにも、ぜひ観てほしいと思います。家族で行って、一緒に考えられたらいいですね。



壁一面の写真や映像が水俣病の真実を教えてくださいました

グリーンコープ生協ふくおか理事長
三原 幸子さん

福岡展の会場に入ると、壁一面の写真に釘付けになりました。中でも胎児性水俣病の子どもを抱いたお母さんの写真は、同じ母親として胸に迫るものがあり、今まで自分は真実を知らなかったのだと思いました。

当時のテレビ中継の映像もありましたが、工場の廃水が原因だと知りながら経済を優先させる国の姿勢は、福島原発事故と同じだと思いました。水俣展は、一番大事なのは人間の「いのち」なんだと私たちに教えてくれます。水俣展に行かなければ分からなかった皆さんのことに気づくことができました。ぜひ多くの方に足を運んでいただきたいと思います。



福岡展にて、展示に見入る来場者



浄土真宗本願寺派
寛永寺住職
筑紫女学園大学教授
「水俣・福岡展」
サポーター
栗山 俊之さん

ぜひ学生たちと一緒に観に行きたいと思っています。

水俣病事件の背景や全体像、核心部分が凝縮された奥深い内容です

私は大学で人権に関する講義を担当していますが、水俣病事件は必ず入るテーマです。便利さや豊かさを求め、自分だけがよければ他人はどうなってもいいという私たちの生き方、社会の在り方こそが、水俣病事件を生み出したからです。水俣フォーラムの活動をはじめ、著作、映像、芝居、絵など、水俣病に関する「水俣病展」は、水俣病事件の背景にある膨大なものがコンパクトに、しかも核心部分をしっかりと押さえて展示されているので、全体像がはつきり分かります。また観る人それぞれの問題意識にも応えてくれる奥行きのある展示になっています。

11月28日、熊本市国際交流会館ホールで開催されるシンポジウム「水俣から考える『命(いのち)』の意味」は、グリーンコープ生協くまもとで検討して実現したプログラムです。

今春福島に行き、原発事故で被災した方々と出会いました。事故前まで普通に食べていたものが突然食べられなくなり、日常の暮らしが奪われ、今も多くの方が苦しんでいます。福島で起きていることは水俣と同じではないかと思いました。

水俣病患者の方々にお会いする機会があり、そのお一人が「どうしてグリーンコープと一緒に主催するのだろうと思っていただけ、グリーンコープと水俣病は、食べもので繋がっているんだね」と言われたことが印象に残っています。ホールプログラムのテーマについて、グリーンコープらしいテーマにしようと、くまもとの組合員みんなで

相話し、「命(いのち)」にしました。まず「水俣病展2017」の展示をじっくり観ていただき、その後ホールプログラムに参加いただくことで、過去の歴史を学ぶだけでなく、これからどう活かしていくのかを考える場にしていただけないかと思っています。

ホールプログラム
「水俣から考える『命(いのち)』の意味」

展示を観た後、ホールプログラムに参加してさらに考えてみませんか

グリーンコープ生協くまもと 理事長 高濱 千夏さん

水俣病展2017 ホールプログラム シンポジウム「水俣から考える『命(いのち)』の意味」

日時：2017年11月28日(火) 午後12時開場、12時30分～3時
会場：熊本市国際交流会館ホール(230席)
講師：緒方正人(漁師、水俣病患者)
中村桂子(生命誌研究者)、上田紀行(文化人類学者)
司会：竹下景子(女優)

環境汚染や食品添加物、放射能で危機に曝される一方、多発する自殺やいじめ、心の病の根底には生命の固有性を感じにくくなった現代社会の姿があります。そんな今だからこそ根源から考えたい「命とは何か」。「水俣病は生命界への冒瀆」と語り、その思索が注目される緒方さん。最先端の生命科学が描き出した生命像をビジュアル化して「生命誌」の読み解きに努める中村さん。ロングセラーを続ける『生きる意味』の著者で、ダライ・ラマ14世はじめ世界各地の宗教家との対談を重ねる上田さん。「水俣・東京展2000」の来場以来、水俣に心を寄せる竹下さんの司会で開催する3人の講演と対話は、発足以来、「命」を守るための事業と運動に取り組み続ける私たちグリーンコープ組合員待望の企画です。